

甲瀛子

もの市原望陀の海に産す、其名をきさごといふ、土人採て稻田の糞とす。

〔新撰字鏡虫〕𧈧姑含反、𧈧大者、海豆比。

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

〔本草和名蟲魚〕甲瀛子、蓋上甲錯似鯀魚皮、角蓋、榮螺子胡塙板螺性味相似一名𧈧呼甘反似蛤

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

〔倭名類聚抄龜貝〕甲瀛子、本草云、甲瀛子今按、𧈧即螺字也、音羅、貌似辛螺而中有角蓋者也。

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

〔箋注倭名類聚抄龜貝〕按、海瀛、海產螺類之總稱、然多都比。謂之田螺、故漢語抄海螺訓都比也。谷川氏曰、伊勢桑名四日市之間謂之都煩然則都比當壺之義、又曰以散送京謂之貝、音讀江戸俗亦呼。

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

婆伊愚按都昆謂其形昆于然也、粒訓以奈都昆亦同、壺訓都苦亦同語耳、非以壺義名螺也。○中所引文、千金翼方證類本草及注皆不載。按本草和名引崔禹食經、其文全同、只中作口無者也二字爲異、則知此源君誤引、其作中亦誤、然龜貝體角蓋條引亦作中、蓋源君所見本誤、非後來傳抄之誤也。

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

今不遽改、本草和名引有角蓋下云、蓋上甲錯似鯀魚皮、愚按據其云、蓋上甲錯如鯀魚皮、非都比崔氏、又狀辛瀛子云、貌似甲瀛狀、小瀛子云似甲瀛而細小、則甲瀛子當充佐々江、海藥本草有小甲香、若螺子狀、取其帶而修成也、貝原氏曰、此可以充婆伊、小野氏從之、未知然否、小野氏又曰、婆伊清俗謂之王螺、黃螺、油螺。

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

〔類聚名義抄虫〕螺螺カヒツヒ

〔令義解賦役〕凡調○中正丁一人絹絶八尺五寸○中若輸雜物者○中螺謂之冊二斤

〔山家和歌集雜〕ひゞしづかはと申方へまかりて、四國のかたへ渡らんとしけるに、風あしくてほ

どへけり、ゑぶかはのうらだと申所におさなきものどもの、あまた物をひろいけるを、とひければ、つみと申もの、ひろふなりと申けるを聞て、

おりたちてうらだにひろふあまのこはつみよりつみをならふ也けり
すなべと申島に、京よりあき人どものくだりて、やうくのつみの物どもあきなひて、又し